

まちへ広がる美術館—アーツ前橋—



街の中に柔らかな光のヴォリュームとなって浮かび上がる美術館の姿。市街地の活性化の創出につながるよう、夜もその賑わいを演出している。

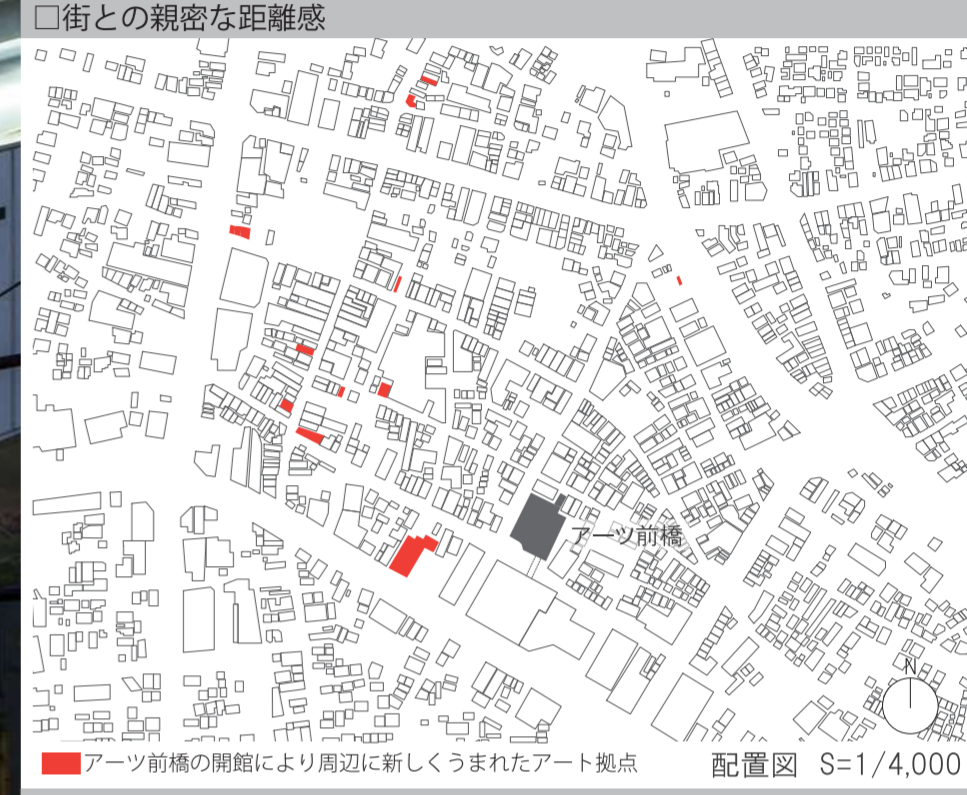
群馬県前橋の中心繁華街にある長年空きビルの状態であった旧デパートをコンバージョンし、街へつながる拠点としての公共美術館に生まれ変わらせるプロジェクト。単に新しい美術館の誕生にとどまらず、衰退が見られる周辺市街地の再生へのひとつの起点となることを計画の背景としている。

圧倒的にまちに近い立地条件を活かし、「まちの散歩道のような美術館」となることを目指しながら、「既存建物の魅力のリデザイン」、「市民に開かれたスペースづくり」をデザインのポイントとしている。

ファサードは既存建物の外形を保存し、人々が記憶する既存建物の様相を継承しながら、独自のパンチングメタル素材を開発・新設し、建物がまるで新しい衣を纏ったかのような新たな景観を生み出している。

施設は「プロムナード」と呼ばれる回遊空間を中心に、すべて異なるヴォリュームで構成された空間が連続しながら全体を繋げることで、街を通る人々が美術館の中へ中へと導かれていく構成が特徴的である。ぐるりと施設を巡る間に、様々な大きさや位置に設けられた窓を介して美術品や、建築自身の魅力、施設内の人々の活動に出会うことができるようになっている。また既存建物の要素を残すデザインを丁寧におこない、それらがつくるいい意味での「ひっきり」がゆるやかにつながりを形成している。

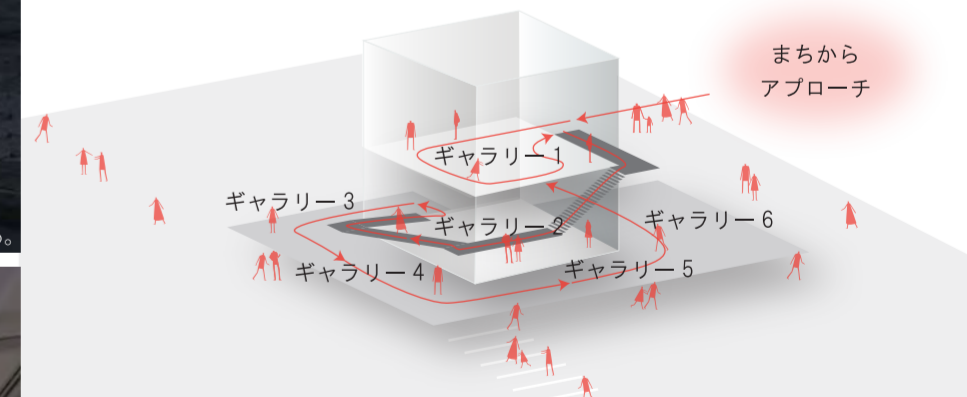
街の活性化は美術館の誕生後直ちに完了するわけではないが、旧施設の記憶と共に全く新しいイメージを通して街へとつながる美術館が始動している。



□美術館からまちへ まちの表情を美術館の中に取り込み、日常の連続の中に、少し違う「もう一つのまち」を内包する



□まちから周遊する美術館 まちと連続するように展示空間が展開される



□アーツ前橋からアートの輪がまちへ展開する



ギャラリー4を見通す。右手前はギャラリーゼロ、奥はギャラリー5。プロムナードに通じる小さな階段が設けられた様々なスペースが入り混じる場所で、プロムナードに向かって開口が設けられ、行き交う人々の気配を感じることができる。



施設全体を回遊状につなぐプロムナードは既存スラブを撤去した吹き抜け空間。露しの梁は既存躯体を象徴的に表現。



展示壁にあいた開口からプロムナードをみる。異なる床レベルの空間を垣間見ることができる細長い開口。

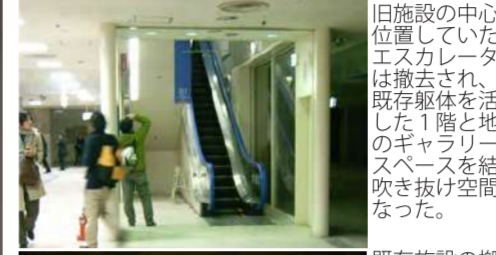


ギャラリー2 全景 中央には既存エスカレーターの撤去による吹抜け、展示壁には開口が設けられ、人々の動きを感じることができる。

□慣れ親しんだ既存のまちの場所性を新たな意味をもつ空間へ



既存躯体の一部を撤去することで、階高が制約されていた既存建築にスケール感の大きな差を形成するプロムナード空間を生み出した。開口の位置や納まりなど丁寧に計画した。



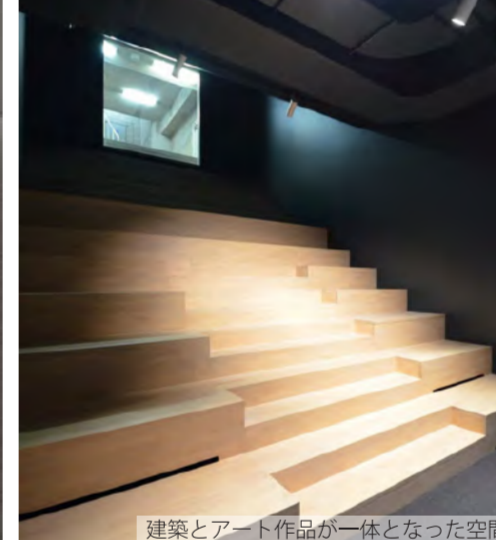
旧施設の中心に位置していたエスカレーターは撤去され、既存躯体を活かした1階と地下のギャラリースペースを結ぶ吹き抜け空間となった。



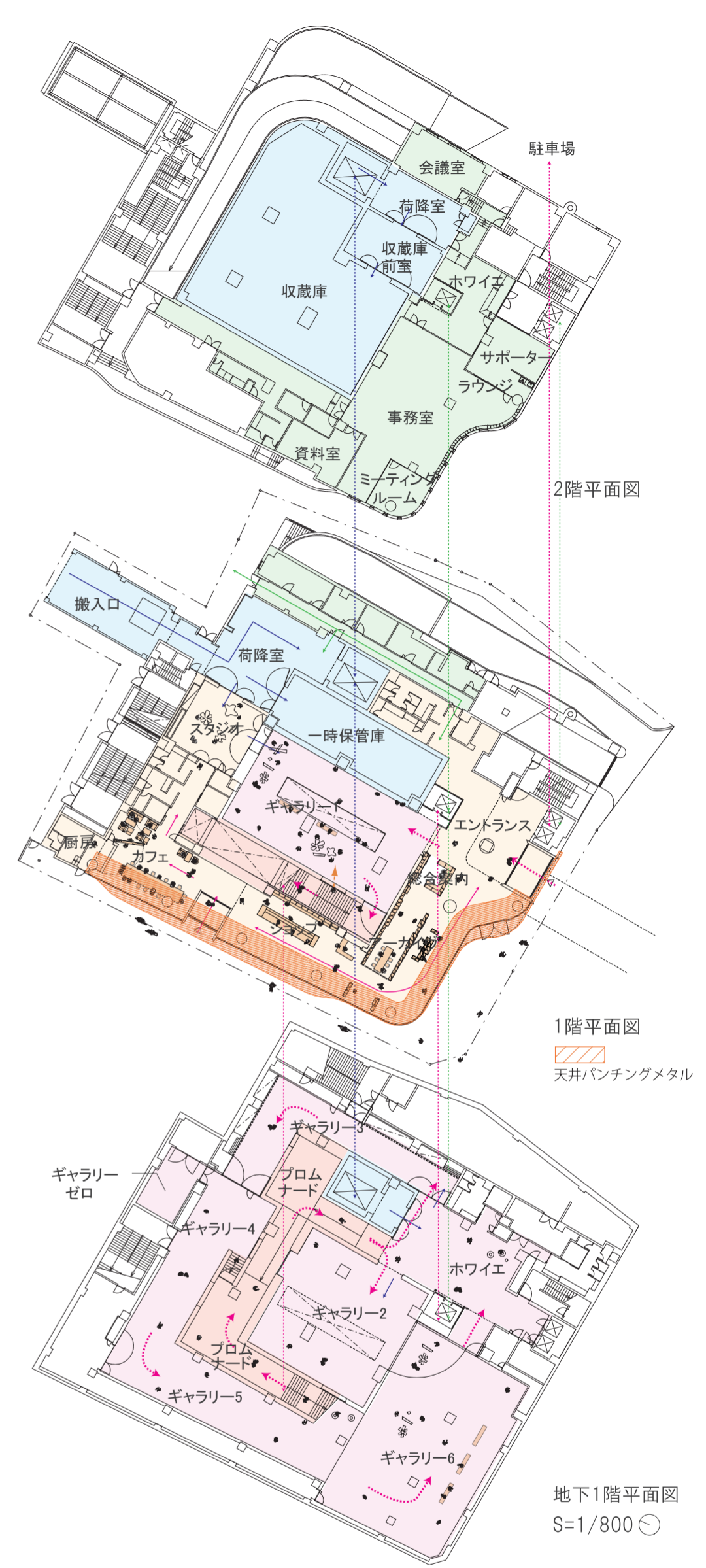
既存施設の搬入導線だった空間の階段を一部撤去し、小さな常設展示(コミッションワーク)に転用した。黒を基調とした内装が、他の展示室と異なる空間体験を与える。



非常階段撤去後、黒のギャラリースペースとなった。



建築とアート作品が一体となった空間



□まちの記憶をとどめる



既存の曲面を活かしたバンチング。バンチングの孔径は、下部から上部へかけて小さくなるというグラデーションを描いたデザインとなっている。

□まちの要素をとりこむことでまちに開く、つながる



交流スペース(アーカイブ)



カフェスペース



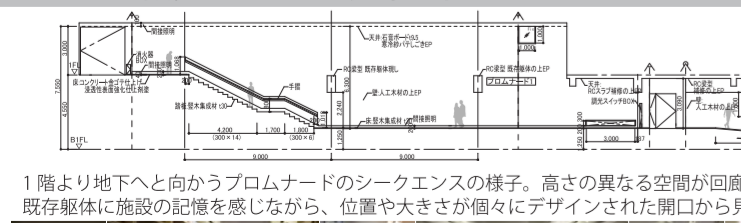
ギャラリー1からギャラリー2をみる。



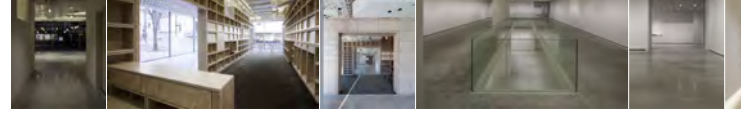
ギャラリー6で行われたアートイベントの様子



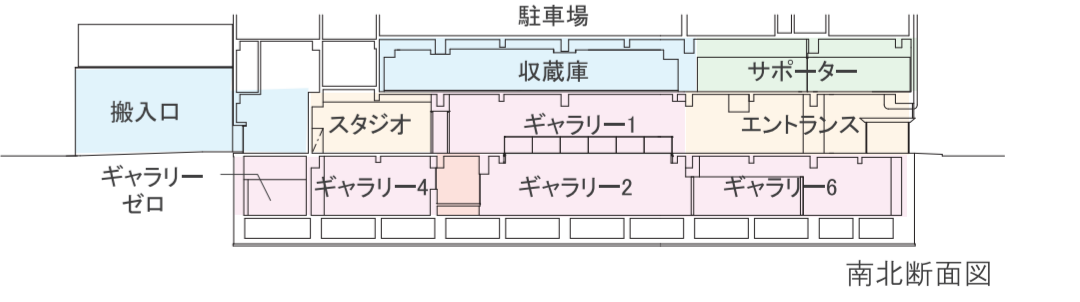
□まちの散歩道のような多様な景をつくりだす



1階より地下へと向かうプロムナードのシーケンスの様子。高さの異なる空間が回廊のように続き、さまざまなスケールの空間をたどる。それは2層分の高さをもつ開放的な場所と天井の低い親密感のある場所を、行ったり来たりしながら巡る体験である。既存躯体に施設の記憶を感じながら、位置や大きさが個々にデザインされた開口から見える風景を楽しみ、アートや人々に出会う場所である。



施設内にさまざまなボリューム感をもつ空間が展開される



ゾーニング 凡例	
[Red]	展示スペース
[Orange]	交流スペース
[Green]	管理スペース
[Blue]	収蔵スペース

動線計画 凡例	
[Red Dotted]	一般来館者
[Green Dotted]	美術館スタッフ
[Blue Dotted]	収蔵品等

設計 建築	水谷俊博建築設計事務所
構造	吉田一成構造設計室
設備	機械 イーエスアソシエイツ 電気 大瀬設備事務所
施工	佐田・鶴川・橋詰特定建設工事共同企業体
敷地面積	2,629.69m ²
建築面積	1,923.16m ²
延床面積	5,517.38m ²
階数	地下1階 地上9階のうち地下1階 地上1・2階部分
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
工期	2011年12月~2012年10月
設計期間	2011年3月~2011年7月
用途	美術館